

ユニバーサル コミュニケーション デザイン協会(UCDA)は、 独創的な商品開発やマーケティング活動を支援する 生活者心理分析サービス「DIMS」を開始しました。

～生活者が自ら創作する物語(動画)に投影する心理を、分析するサービスです～

企業や団体が生活者に提供する情報コミュニケーションの問題点を、生活者視点で発見し、「見やすく、わかりやすく、伝わりやすく」改善する活動を行っている一般社団法人ユニバーサル コミュニケーション デザイン協会 (UCDA/理事長：福田 泰弘) は、このたび、「生活者の観察」「コミュニケーションの分析」などのノウハウを応用し、生活者が自ら制作する物語(動画)を用いて潜在的な心理分析を行う「ディープ・インサイト・マイニング・システム(DIMS)」を開発、サービスを開始しました。

最近では、生活者を観察・分析する手法としてエスノグラフィが用いられますが、調査員が同行することや、ビデオ撮影をすることで、生活者が普段のままの生活を再現せず、不自然な行動をとるなどの弱点があげられています。

そこでUCDAでは、生活者が調査員を意識することなく、創作する物語に深層心理や願望が投影される原理を応用し、完成した物語を「S・C・A・D・E」(注1)で分析する生活者心理分析サービス「DIMS」を開発しました。動画制作には、東北大学電気通信研究所の青木輝勝准教授のチームが開発した、誰でも手軽に動画を作成できるソフトウェアDMD(注2)を使用し、物語の分析は、クリエイティブリンク社(注3)とUCDAが共同で行います。

分析サービスの特徴は、①商品・サービスに対する生活者の潜在的欲求を抽出することができる。②バーチャルエスノグラフィとして、感性・行動・心理を同時に短期間で分析できる。③動画でアウトプット(図1)が得られるため、文字の報告書よりも直感的な理解ができることです。

UCDAは、「DIMS」により生活者の潜在的欲求にフォーカスし、創造的で、革新的な商品やサービスの開発、マーケティング分野におけるコミュニケーション活動を支援します。

注1) 「S・C・A・D・E」分析

- ・何時→何処で→誰が→誰と→何をする→どんな会話をする→丸ごとストーリー化
- ・取得した形式知(数値データ)からユーザーの生活感や行動パターン、価値観を予測



注2) DMD(Digital Movie Director)

東北大学電気通信研究所の青木輝勝准教授のチームが開発した、誰でも手軽に動画を作成できるソフトウェア。主語、述語、目的語、セリフを入力するだけで、3Dのアニメーションを制作できる



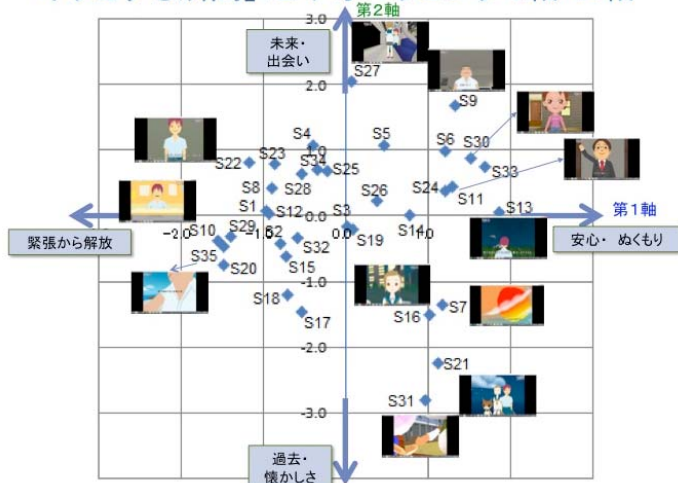
- ① 登場人物を選択
- ② シーンを選択
- ③ セリフを入力
- ④ 小道具を選択
- ⑤ 動作を選択
- ⑥ カメラアングルを選択
- ⑦ 音楽を選択
- ⑧ 効果音を選択

注3) 株式会社クリエイティブ・リンク (代表取締役社長 小川雅久)

国内外のマーケティングの専門家をネットワークして、創造的な商品・サービス開発、革新的ビジネス開発を支援するマーケティング・コンサルティング会社。

図1) アウトプット事例

「ホッとする瞬間」:ビデオマッピング1軸×2軸



注4) 一般社団法人ユニバーサル コミュニケーション デザイン協会®

2007年任意団体として設立（2009年11月に一般社団法人化）。視覚情報伝達の領域に、人間中心設計の考え方を導入。生活者の生命・財産に関わる「金融コミュニケーション」の分野を中心に、帳票やコミュニケーションメディアの研究と評価・改善を行っています。産業・学術・生活者の第三者による研究および評価・改善活動で情報の伝達効率を向上させ、発信者である企業・団体と、受信者である生活者、双方の利益に資することをめざしています。

●本件に関するお問合せ先

一般社団法人ユニバーサル コミュニケーション デザイン協会® (UCDA) 事務局

TEL : 03-3543-8355 FAX : 03-3549-6152

E-mail : info@ucda.jp

URL : <http://www.ucda.jp>